

今週（2月22日から2月26日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、前週に引き続き資金調達意欲が強く、無担保コールO/N加重平均レートは高止まりとなった。基準比率の低下（1月積み期間13.0%→2月積み期間11.5%）から大手行の調達ニーズはやや低下しているものの、地銀業態の資金調達姿勢は強く、一部では取り上がる動きも見られた。週初の22日以降は、週末要因が剥落したものの、資金調達意欲は強く、無担保コールO/N加重平均レートは横ばい圏の▲0.02%前後での取引となった。週末の26日は、3日積み要因から大手行を中心に取り上がる動きが見られたものの、レートは横ばいとなった。ターム物に関しては、資金調達ニーズが強いものの、オファー案件が少なく、ショートターム物で▲0.010%前後の出合いが散見された程度であった。日銀当座預金残高は、概ね490兆円台前半での推移と、先週と横ばい圏であった。

25日には新型コロナ対応金融支援オペが6M物でオファーされ、178,756億円の貸付が行われた（期落ちは182,948億円）。残高は26日時点で561,440億円となる見込み。

●レポ市場

今週のGCT/Nは、▲0.095～▲0.075%出合いと横ばい圏で推移した。週初22日のT/Nは▲0.09～▲0.075%の出合い。翌24日のT/Nも同水準で推移した。翌25日のT/Nは月末を跨ぐ取引となり、国債買入オペが実施されたこともあって、オファーが引き気味となり▲0.095～▲0.08%の出合いと小幅にレートが低下した。26日のT/Nは、短期3M物と2年債の発行があったものの、▲0.09～▲0.085%出合いと落ち着いた展開となった。

SCについては、2Y413～420、5Y140～145、10Y354～361、20Y171～175、30Y65～69、40Y13などカレント銘柄を中心にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、依然として短国買入オペの応札額は多く、業者の在庫保有が意識されているものの、レートは横ばい圏での推移となった。マーケットでは動意に乏しい中、3M物で▲0.105%近辺、6M物で▲0.115%近辺、1Y物で▲0.130%近辺での出合いが見られた。

22日に実施された短国買入オペは、前回から5,000億円増額の15,000億円でオファーされ、平均落札利回較差+0.003%、按分落札利回較差+0.002%と、やや弱めな結果となった。

24日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.106%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1088%、按分落札利回▲0.1068%と、しっかりした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.120%出合いと、堅調に推移した。

26日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.102～▲0.100%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1050%、按分落札利回▲0.1023%と、しっかりした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.110%出合いと、堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP発行市場は月末末であったものの発行量は膨らまず、償還総額15,000億円程度に対し、発行総額は7,000億円程度と大幅な償還超のマーケットとなった。24日の月末にかかる発行では、食料品や輸送機器、建設業態等でまとまった額の発行が見られたものの、電気機器や不動産、機械業態等の大口の償還がロールされなかった。市場発行残高は25日までは概ね25兆円台後半の推移となっている。発行レートについては、新型コロナオペの担保確保の買いニーズからか、タームを問わず、対象となる銘柄についてはその大半がマイナス圏で推移した。発行頻度の低い稀少銘柄に関しては、過去最低水準でのマイナスの買いも見られた。

22日にはCP等買入オペが、事前予定6,000億円から変更され、5,000億円でオファーされた（応札下限レートは前回比▲1bpの▲0.09%）。オファー額が減額されたことで、応札額が積み上がらない展開が予想されたためか、平均落札レート▲0.031%、按分レート▲0.036%と前回（平均▲0.022%・按分▲0.034%）比で平均・按分ともに低下した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 （億円）
2/22（月）	30,156.03	0.115	105.48	△ 0.020	△ 0.090	4,913,800
2/23（火）						
2/24（水）	29,671.70	0.115	105.50	△ 0.020	△ 0.087	4,927,800
2/25（木）	30,168.27	0.140	106.05	△ 0.022	△ 0.094	4,920,200
2/26（金）	28,966.01	0.160	106.23	△ 0.022	△ 0.095	4,938,700

来週（3月1日から3月5日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
3/1 (月)					1月の米建設支出 2月のISM 製造業景況指数
3/2 (火)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 1月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 1月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 2月のマネタリーベース(日銀 8:50) 10-12月期の法人企業統計調査季報(財務省 8:50)	10Y 26,000億円 3/3発行	交付税借入 10,500億円 3/9借入		2月のユーロ圏消費者物価指数速報値
3/3 (水)	群馬県金融経済懇談会において、片岡審議委員講演 3月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)				米ページブック 2月のISM 非製造業景況指数
3/4 (木)	2月の消費動向調査(内閣府 14:00)	30Y 9,000億円 3/5発行	交付税借入 10,500億円 3/12借入		1月の米製造業新規受注・出荷・在庫
3/5 (金)	2月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50)	TB3M 67,000億円 3/8発行			1月の米貿易収支 1月の米消費者信用残高 2月の米雇用統計

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
3/1 (月)	▲ 200	▲ 33,100	▲ 33,300	国債補充	300		300	▲ 33,000	財政融資資金の回収 TB3M発行▲67000償還71400 2Y発行▲30000償還7000
3/2 (火)	0	▲ 17,000	▲ 17,000				0	▲ 17,000	税・保険料揚げの前倒し 交付税借入▲10500期日10000
3/3 (水)	0	▲ 68,000	▲ 68,000	成長基盤	▲ 5,300	6,800	1,500	▲ 66,500	年金保険料揚げ 法人税・消費税揚げ 10Y発行▲26000
3/4 (木)	0	3,000	3,000				0	3,000	
3/5 (金)	0	▲ 5,000	▲ 5,000	新型コロナ支援			0	▲ 5,000	30Y発行▲9000 交付税借入▲10500期日10000
週間合計	▲ 200	▲ 120,100	▲ 120,300	—	▲ 5,000	6,800	1,800	▲ 118,500	

3/1は日銀予想、3/2以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期間後半となる。無担保コールO/Nは、基本的には横ばい圏での推移が見込まれるが、ON物・タム物ともに調達ニーズが強まる可能性もあり得る。レポ市場は、GC T/Nは引き続きキャッシュ漬しの買いが厚いことが想定され、▲0.10～▲0.075%程度と、低位での推移が予想される。短国市場は、5日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、2日に実施が予想される短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、特段のイベントは無い。3月末に向けた事業法人の発行動向や市場残高の推移が注目される。

主要なイベントは、海外では2日にユーロ圏消費者物価指数速報値、3日にページブック、5日に2月の米雇用統計などが予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまようようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入